

## 広告・メディア・ゲーム

### 1. 評価対象企業（19社）

博報堂 DY ホールディングス、コーエーテクモホールディングス、ネクソン、コロブラ、ガンホー・オンライン・エンターテイメント、電通、フジ・メディア・ホールディングス、リクルートホールディングス、セガサミーホールディングス、バンダイナムコホールディングス、任天堂、東京放送ホールディングス、日本テレビホールディングス、テレビ朝日ホールディングス、テレビ東京ホールディングス、東宝、スクウェア・エニックス・ホールディングス、カプコン、コナミホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

### 2. 評価方法

#### (1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	26
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	13
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	21
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	8
計		14	100

（注）評価項目の内容および配点は 117 頁参照

#### (2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 33 名（26 社）である。（118 頁参照）

### 3. 評価結果

#### (1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（116 頁）参照）

- ① 本年度は、説明会等において配点変更 2 項目、フェア・ディスクロージャーにおいて内容・配点変更 1 項目、内容変更 1 項目、配点変更 2 項目、コーポレート・ガバナンス関連において新設 1 項目、自主的な情報開示において内容変更 1 項目を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 63.3 点（昨年度 62.2 点）であった。また、総合評価点の標準偏差は 9.0 点（昨年度 7.9 点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、広告・メディア（9 社：博報堂 DY ホールディングス、電通、フジ・メディア・ホールディングス、リクルートホールディングス、東京放送ホールディングス、日本テレビホールディングス、テレビ朝日ホールディングス、テレビ東京ホールディングス、東宝）62.6 点、ゲーム（10 社：コーエーテクモホールディングス、ネクソン、コロブラ、ガンホー・オンライン・エンターテイメント、セガサミーホールディングス、バンダイナムコホールディングス、任天堂、スクウェア・エニックス・ホールディングス、カプコン、コナミホールディングス）63.9 点となった。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点/配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が63%（昨年度同率）、**説明会等**が71%（昨年度67%）、**フェア・ディスクロージャー**が74%（昨年度81%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が55%（昨年度54%）、**自主的情報開示**が42%（昨年度38%）と**フェア・ディスクロージャー**が低下し、その他の4分野は同率または若干上昇した。**自主的情報開示**の分野が他の4分野に比べて極端に低く、次いで**コーポレート・ガバナンス関連**の分野が他の3分野より低水準の傾向は昨年度と変わらない。
- ④ 評価項目について見ると、全14項目のうち次の1項目が平均得点率で80%以上となり、全ての企業において80%以上の得点率（評価点/配点（以下省略））となった。

・「外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていますか」（平均得点率86%、得点率：100%3社・90%5社・80%11社）

- ⑤ 一方、次の4項目は平均得点率が低水準である。得点率の低位な企業において今後の改善が望まれる。

- (a) 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益でしたか」（平均得点率42%、得点率：10%台1社・20%台2社・30%台7社）
- (b) 「コーポレート・ガバナンスを重視する観点から、成長性やROE等の資本効率を意識した経営指標を公表し、達成のための具体的方策やその後の進捗状況について、十分かつ継続的に説明されていますか」（平均得点率53%、得点率：30%台2社・40%台7社・50%台4社）
- (c) 「配当政策、自社株買い、自社株消却等の方針が客観的かつ合理的に説明されていますか」（平均得点率55%、得点率：30%台4社・40%台2社・50%台3社）
- (d) 「経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に生かしていますか」（平均得点率55%、得点率：30%台1社・40%台7社・50%台4社）

## (2) 上位3企業の評価概要

### 第1位 リクルートホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点80.4点〔昨年度比+10.8点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、**コーポレート・ガバナンス関連**（得点率（以下省略）79%）、**自主的情報開示**（76%）が第1位、**経営陣のIR姿勢等**が同得点第1位（78%）、**説明会等**が第2位（86%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第3位（81%）となった。**フェア・ディスクロージャー**を除く4つの評価分野の得点率が昨年度を上回り、評価項目においても昨年度と比較可能な13項目中11項目が改善し、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅第1位、順位の上昇幅同点第3位）につながった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、経営陣がIR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略や資本政策を積極的に説明しているほか、IR活動で得られた投資家・アナリストの声を真摯に受け止め経営活動に生かしていることなど、経営陣のIR姿勢について評価された。また、IR部門に十分な情報が集積され、決算説明関連資料が充実していることから、IR担当者と有益なディスカッションができることなど、同部門の機能についても評価された。
- ③ **説明会等**においては、決算説明会やインタビューにおける会社側の説明と質疑応答が充実していることが評価された。また、説明資料、補足資料等においてアナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業のKPI、主な費用等）の実績および見通しが十分かつ継続性を持って開示されていること、分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が分かりやすくかつ十分に記載されていることに加えて説明が丁寧であることなど、説明資料等が充実していることも評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分注意を払っていることや、ホーム・ページの掲載資料が充実し有用であることなどが評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレート・ガバナンスを重視する観点から、成長性やROE等の資本効率を意識した経営指標を公表し、達成のための具体的方策やその後の進捗状況について、十分かつ

継続的に説明されていることが評価された。また、配当政策、自社株買い、自社株消却等の方針が客観的かつ合理的に説明されているなど、株主還元策の開示についても評価された。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、全社的に得点率が低かったところ、同社は、求人検索サイト運営会社の「トップマネジメント説明会」等が有益であったと評価され、昨年度に比べ、得点率が 47 ポイント（29%から 76%へ）、評価点が 3.8 点（2.3 点から 6.1 点へ）大幅に上昇した。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## **第 2 位 電通（総合評価点 77.3 点〔昨年度比-0.3 点〕、昨年度第 1 位）**

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第 1 位（88%）、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 1 位（78%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第 2 位（72%）、**説明会等**が第 3 位（83%）、**自主的情報開示**が第 7 位（53%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR 活動の重要性を認識し、説明会では経営陣が自らの言葉で見通しを説明し理解を得ようとする姿勢が見られ、プレゼンテーションや質疑応答が的確であることや、IR 活動で得られた知見および意見が経営陣にフィードバックされていることなど、経営陣の IR 姿勢について評価された。また、IR 部門に十分な情報が集積され、情報開示に積極的であることから、IR 活動に精通する担当者とタイムリーに情報交換でき、会社の悪材料についてもディスカッションができるなど、同部門の機能についても評価された。
- ③ **説明会等**においては、決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答が充実していることが評価された。また、説明資料、補足資料等においてアナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業の KPI 等）の実績および見通しが、十分かつ継続性を持って開示されていることに加えて、分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が分かりやすくかつ十分に記載されているなど、決算説明関連資料が有用であることも評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分注意を払っていることが評価された。また、アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（月次売上高および重要指標の月次傾向、業績修正、新サービス、設備投資計画の変更、M&A等）の開示が迅速かつ十分であることなど、タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢も評価された。さらに、ホーム・ページの掲載資料が充実し有用であることも評価され、この分野全体について高く評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、社内体制見直し等を外部に分かりやすく説明し理解を得ようとしたことが評価されたほか、コーポレート・ガバナンスを重視する観点から、成長性や ROE 等の資本効率を意識した経営指標を公表し、達成のための具体的方策やその後の進捗状況について、十分かつ継続的に説明されていることも評価された。

## **第 3 位 セガサミーホールディングス（総合評価点 75.8 点〔昨年度比+9.0 点〕、昨年度第 6 位）**

- ① 同社は、**説明会等**が第 1 位（87%）、**フェア・ディスクロージャー**（82%）、**自主的情報開示**（71%）が第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**が第 3 位（70%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 4 位（70%）となった。全ての評価分野の得点率が昨年度を上回り、評価項目においても昨年度と比較可能な 13 項目中 10 項目が改善し、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅第 2 位、順位の上昇幅同点第 3 位）につながった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、IR 部門がマネジメントの考え方、製品・サービスの開発や現場の状況、市場動向等に精通しており、同部門担当者と有益なディスカッションができることが評価された。
- ③ **説明会等**においては、決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答が十分に満足できることなど、説明会、インタビューにおける開示が評価された。また、説明資料等でアナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目の実績および見通しが、十分かつ継続性を持って開示されていることや、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（中期経営計画、経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていることなど、説明資料等における開示も評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況

等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分注意を払っていることが評価された。また、アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（月次売上高および重要指標の月次傾向、業績修正、新サービス、設備投資計画の変更、M&A等）の開示が迅速かつ十分であることなど、タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢も評価された。さらに、説明会の動画配信も有用であると評価された。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードについて、会社が十分に理解し十分説明されていることが評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、全社的に得点率が低かったところ、同社は、「VR施設見学会」等が有益であったと評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 任天堂（総合評価点 64.8 点〔昨年度比+7.8 点〕、同得点第 8 位〔昨年度第 13 位〕）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第 4 位（59%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 6 位（68%）、**フェア・ディスクロージャー**が第 7 位（75%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第 9 位（59%）、**説明会等**が第 17 位（62%）となった。**フェア・ディスクロージャー**を除く 4 つの評価分野の得点率が昨年度を上回った。
- ② 同社は、「経営陣が、**IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。**」という評価項目において第 2 位（78%）に評価されたほか、以下の 3 つの評価項目においても高く評価されるなど、昨年度と比較可能な評価項目 13 項目中 10 項目が改善し、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅第 3 位、順位の上昇幅同点第 1 位）につながった。

- ・「ホーム・ページで有用な情報提供（過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を行っていますか。」同得点第 1 位（90%）
- ・「配当政策、自社株買い、自社株消却等の方針が客観的かつ合理的に説明されていますか。」第 3 位（69%）
- ・「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。」同得点第 3 位（84%）

以 上

# 平成29年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (広告・メディア・ゲーム)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点32点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目3 (配点26点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目4 (配点13点)		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 評価項目3 (配点21点)		5. 各種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点8点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(6098) リクルートホールディングス	80.4	24.9	1	22.3	2	10.5	3	16.6	1	6.1	1	4
2	(4324) 電通	77.3	24.9	1	21.5	3	11.5	1	15.2	2	4.2	7	1
3	(6460) セガサミーホールディングス	75.8	22.3	4	22.5	1	10.7	2	14.6	3	5.7	2	6
4	(2433) 博報堂DYホールディングス	71.4	21.6	7	20.4	5	10.5	3	14.1	5	4.8	3	2
4	(9697) カブコン	71.4	23.3	3	20.7	4	10.4	5	14.2	4	2.8	10	3
6	(7832) バンダイナムコホールディングス	67.4	21.4	9	18.7	10	9.6	9	13.4	6	4.3	5	9
7	(3659) ネクソン	65.9	22.2	5	19.9	7	9.7	8	11.4	10	2.7	11	10
8	(3668) コロプラ	64.8	21.5	8	19.5	8	9.1	14	11.0	12	3.7	8	7
8	(7974) 任天堂	64.8	21.8	6	16.1	17	9.8	7	12.4	9	4.7	4	13
10	(9684) スクウェア・エニックス・ホールディングス	62.9	21.3	10	17.6	13	9.6	9	12.5	8	1.9	17	5
11	(3635) コーエーテクモホールディングス	61.3	19.9	11	16.8	14	9.0	16	13.0	7	2.6	12	未実施
12	(9404) 日本テレビホールディングス	58.5	17.5	14	18.8	9	9.4	12	8.5	16	4.3	5	8
13	(9602) 東宝	57.5	18.6	12	18.0	11	9.6	9	9.6	13	1.7	18	18
14	(9413) テレビ東京ホールディングス	57.4	16.4	17	20.0	6	10.3	6	8.2	18	2.5	14	12
15	(9409) テレビ朝日ホールディングス	57.0	18.0	13	18.0	11	9.4	12	9.0	15	2.6	12	14
16	(9766) コナミホールディングス	54.3	17.4	15	14.4	19	8.1	19	11.2	11	3.2	9	19
17	(4676) フジ・メディア・ホールディングス	52.4	15.7	18	16.3	16	8.9	17	9.1	14	2.4	15	16
18	(9401) 東京放送ホールディングス	51.4	15.0	19	16.7	15	9.1	14	8.2	18	2.4	15	17
19	(3765) ガンホー・オンライン・エンターテイメント	49.9	16.7	16	14.8	18	8.5	18	8.5	16	1.4	19	15
	評価対象企業評価平均点	63.26	20.02		18.58		9.67		11.62		3.37		

(注1) 総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は9.0点(昨年度7.9点)であった。

29年度評価項目および配点（広告・メディア・ゲーム）

<b>1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス</b>	配点 (32点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。	10
② 経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に生かしていますか。	10
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	12
<b>2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示</b>	配点 (26点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	10
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
① 説明資料等(決算説明資料を含む)で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目(各事業のKPI等)の実績および見通しは、十分かつ継続性を持って開示されていますか。	8
② アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報(経営環境、事業戦略、資本政策等)が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。	8
<b>3. フェア・ディスクロージャー</b>	配点 (13点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・ 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。	5
(2) タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・ アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項(例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A等)の開示は、迅速かつ十分でしたか。	5
(3) ホームページにおける情報提供	
① ホームページで有用な情報提供(過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等)を行っていますか。 [十分である:2点 やや不十分:1点 その他:0点]	2
② 外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていますか。 [十分である:1点 やや不十分:0.5点 その他:0点]	1
<b>4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示</b>	配点 (21点)
(1) コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードについて、会社が十分に理解し十分な説明がなされていますか。	1
(2) 資本政策、目標とする経営指標等の開示	
・ コーポレート・ガバナンスを重視する観点から、成長性やROE等の資本効率を意識した経営指標を公表し、達成のための具体的方策やその後の進捗状況について、十分かつ継続的に説明されていますか。	10
(3) 株主還元策の開示	
・ 配当政策、自社株買い、自社株消却等の方針が客観的かつ合理的に説明されていますか。	10
<b>5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示</b>	配点 (8点)
・ 会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会(IRデーや記者発表会等を含む)を投資家向けにも設けており、それは有益でしたか。[過去1年間を目安に評価]	8

広告・メディア・ゲーム専門部会委員

部会長	前田 栄二	SMBC 日興証券
部会長代理	岩佐 慎介	みずほ証券
	石原 太郎	大和証券
	大場 剛平	野村アセットマネジメント
	城戸 謙治	アセットマネジメント One
	樋口 夏子	三井住友信託銀行
	山村 淳子	野村証券

評価実施アナリスト（33名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	陶 志遠	アライアンス・バーンスタイン
石橋 剛	三井住友アセットマネジメント	長尾 佳尚	野村証券
石原 太郎	大和証券	中川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
岩佐 慎介	みずほ証券	永田 和子	QUICK
上野 賢司	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	納 博司	いちよし経済研究所
大場 剛平	野村アセットマネジメント	樋口 夏子	三井住友信託銀行
岸本 晃知	岡三証券	前田 栄二	SMBC 日興証券
城戸 謙治	アセットマネジメント One	村上 宏俊	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
木下 芳之	リソリチ日本証券	森田 正司	岡三証券
栗原 智也	東海東京調査センター	安田 秀樹	エース経済研究所
児玉 芳明	明治安田アセットマネジメント	安山 誠健	富国生命投資顧問
坂井 ゆかり	三菱 UFJ 信託銀行	山口 威一郎	大和証券投資信託委託
山藤 秀明	QUICK	山村 淳子	野村証券
清水 康之	QUICK	渡辺 洋之	三井住友アセットマネジメント
鈴木 崇生	大和証券	渡辺 洋一郎	水戸証券
寺島 正	大和証券投資信託委託		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。